

アリスティア・マッケナ師

詩篇 139 「神は知っておられる」

139:1 【主】よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。 139:2 あなたこそは私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。 139:3 あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。 139:4 ことばが私の舌にのぼる前に、なんと【主】よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。 139:5 あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。 139:6 そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまりにも高くて、及びもつきません。 139:7 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。 139:8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。 139:9 私が暁の翼をかって、海の果てに住んでも、 139:10 そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕らえます。 139:11 たとい私が「おお、やみよ。私をおおえ。私の回りの光よ。夜となれ」と言っても、 139:12 あなたにとっては、やみも暗くなく夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。 139:13 それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。 139:14 私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。 139:15 私がひそかに造られ、地の深い所で仕組まれたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。 139:16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。 139:17 神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は、なんと多いことでしょう。 139:18 それを数えようとしても、それは砂よりも数多いのです。私が目ざめるとき、私はなおも、あなたとともにいます。 139:19 神よ。どうか悪者を殺してください。血を流す者どもよ。私から離れて行け。 139:20 彼らはあなたに悪口を言い、あなたの敵は、みだりに御名を口にします。 139:21 【主】よ。私は、あなたを憎む者たちを憎まないでしょうか。私は、あなたに立ち向かう者を忌みきらわないでしょうか。 139:22 私は憎しみの限りを尽くして彼らを憎みます。彼らは私の敵となりました。 139:23 神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。 139:24 私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。

導入

今日、私たちは大阪インターナショナルチャーチの 42 周年を祝っています。

今朝この中にも、この教会の歴史をよく知る人たちが何人かおられます。

良い時もあればたいへんな時もありました。そして、この教会の働きをとおして、多くの人たちがクリスチャンになりました。

OIC で洗礼を受けた人もいますし、多くのクリスチャンが OIC で神を知る知識と理解において成長を遂げてきました。

初代牧師のジャック・マーシャル師は、87 歳になった今も元気にイエスに仕えておられます。神のご計画と目的の中で、多くの牧師たちが OIC で仕えてきました。

まだ OIC に来てそれほど長くない人もいます。

私自身、OICに来てまだ2年弱です。ですから、この教会の歴史は少ししか知りません。

けれども、神はOICの歴史のすべてをご存じです。

創立当時から、神ご自身がこの教会を支えてこられました。

そして、この教会に来た人、去っていった人すべての心をご存じです。

この42年の歴史をとおして、神はOICに集うすべての人々を愛し、心にかけて助けてくださいました。ですから、私たちは今日、神の愛に感謝することができます。

OICの交わりのために神がなしてくださったことを振り返って神に感謝するのはすばらしいことですが、私たちは同時に、前を向かなければなりません。これからの一年、神がご自身の民をとおしてなしてくださる業に期待しなければなりません。

今日は私たちの励みとなるよう、詩篇139篇からお話したいと思います。神は私たちをご存じです。そして、私たちも神を知る必要があります。

ダニエル11：32は次のように語ります。

「…自分の神を知る人たちは、堅く立って事を行う。」

ここでダニエルが言う「知る」とは、神学の知識ではありません。それも大事ですが、ここでは、神のしもべとして働き、悩みや問題をとおして神を知るという個人的な体験を指します。

詩篇139篇は、ダビデが記した中でも非常に重要な内容の詩篇です。

139篇のキーワードは「知る」という単語です。

139篇の中に、神が知っておられることについて「知る」という単語が5回登場し、ダビデが知っていることについて1度使われています。

今日のメッセージをとおして、神の知っておられることについて私たちが知識を得、もっと神を「知る」ことが喜びとなるよう願います。

今日は、139篇を4つに分けて学んでいきましょう。

最初は1-6節です。

1. 神がすべてをご存じであることを知り、理解する。(1-6節)

ダビデは、「主よ」という呼びかけでこの詩篇を書き始めます。これは、神をあがめる愛の表現です。ダビデは神を深く敬っており、正しい心の姿勢をもってこの詩篇を始めることを望みました。ダビデは神に対する「聖なる畏れ」を持っていました。

箴言1：7は「【主】を恐れることは知識の初めである。」と語ります。

ダビデが神を知ったのは、しかるべき神への恐れを持っていたからです。

旧約聖書に記されているダビデは、多くの過ちも犯しましたが、「主への恐れ」をいつも持っていました。また、ダビデが過ちを犯したにもかかわらず、神がダビデをとおしてご自身のご計画を成就しようとなさっていることがわかります。

では、サムエル第一24：10を読みましょう。

Iサムエル24:10 実はきょう、いましがた、【主】があのはら穴で私の手にあなたをお渡しになったのを、あなたはご覧になったのです。ある者はあなたを殺そうと言ったのですが、私は、あなたを思って、『私の主君に手を下さまい。あの方は【主】に油そそがれた方だから』と申し

ました。

これは、サウルがダビデを殺そうとしていたけれども、ダビデはサウルを殺そうとしなかった場面の言葉です。それは、サウルが一度は神によってイスラエルの王として油注がれた人だったからです。

サウルは神の召しに応えきれず、神はダビデを代わりに選ばれました。しかし、ダビデはそれでも神がサウルをお選びになった事実を心に留めていました。

私たちが神を知る知識と理解を得るためには、しかるべき神への恐れを持つ必要があります。

ダビデは 1-6 節で、神がどれほど自分のことを知っておられるかを認めています。

ダビデは、自分の考えや行き先、言動のすべてを神がご存じだと語ります。神は、ダビデの人生に起こるすべてのことをご存じなのです。

ダビデは、そのような知識はあまりにも不思議で考えが及ばないと語ります。

ここで、5 節に注目したいと思います。

ダビデは、「あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。」と語ります。

ダビデは、神の守りの御手が自分の上にあることを認識しています。

サムエル第一 23 : 14 は、次のように語ります。「ダビデは荒野や要害に宿ったり、ジフの荒野の山地に宿ったりした。サウルはいつもダビデを追ったが、神はダビデをサウルの手には渡さなかった。」

神の守りの御手がダビデの上にあります。それは、神がイスラエルのために持っておられるご計画を成就するためにダビデを選ばれたからです。

ダビデは、神と「心のつながり」を持つために選ばれました。(サムエル第一 16 : 3,7)

神にとって大切なのは、ダビデの心でした。

ダビデは、神と神のみこころを求める心を持っていました。ダビデには、追放された王としても神に仕える意志がありました。

彼は逆境に置かれてばかりの人生でしたが、それでも喜んで神に仕えました。

私たちはどうでしょう。

私たちには、神と神のみこころを求める心があるでしょうか。

私たちの上に神の御手があることを、悩みや苦しみの真ただ中でも常に認めているでしょうか。

神の御手が特別に私たちの上にあるとは思えないかもしれませんが、実はそうなのです。

神はご自身の御子イエス・キリストをこの世に遣わされました。それは、私たちの罪のために御子が死ぬことによって、神と私たちとの関係が守られるためです。

それほどまでにしてくださったお方なら信頼できるのではないのでしょうか。

私はこのお方を信頼できると確信しています。

例話

北アフリカで迫害があった当時、フレデリック・ノランは敵から逃げていました。彼らは山も谷も越えてノランを追跡し、隠れられる場所は残されていませんでした。疲れ果てたノランは、

洞くつを見つけてそこに入りました。敵に見つかってしまうだろうと思いましたが、もう歩けません。死を待つばかりの彼の前で、大きなクモが洞くつの入口にクモの巣を張り始めました。その後、敵が洞くつにやってきて、その中にノランが隠れているのではないかと考えました。しかし、洞くつの入口に破れていないクモの巣があるのを見て、クモの巣を破らずに洞くつに入るは無理だと考え、洞窟には入らずに、別のところを探すために去って行きました。

しばらくして、ノランは神をたたえてこう言いました。

「神のおられるところでは、クモの巣が壁のようになる。

神のおられないところでは、壁はクモの巣のようなものだ。」

フレデリック・ノランを守られた神は私たちのことも守ってくださいます。

OICにいる私たちの時といのちは神の御手の中にあります。

ハレルヤ。神をたたえます。

では次に、7-12 節に進みましょう。

2. 神がどこにもおられると知り、信じる。(7-12 節)

ダビデは、神が自分の人生のすべてをご存じであると宣言した上で、次に、どこに行っても神のご臨在があると語ります。

ダビデは、神のご臨在から逃れられる場所は全宇宙のどこにもないと心得ています。

ダビデにとっても私たちにとっても、この事実は励ましであると同時に、課題でもあります。

私たちは、同時にひとつの場所にしか存在できません。

私は、同時に生駒と大阪にいることはできません。けれども、神は生駒にも大阪にもイギリスにも、世界中のどこにでも同時に存在できるお方です。

これは私たちの頭の理解を越えています、事実です。

神が目に見えなくても、神の聖霊のご臨在をはっきりと感じた経験があるでしょう。

ヨハネ 14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。

つまり、神に従うことで、神のご臨在を現していただけるのです。

詩篇 16 : 11 で著者は「あなたの御前には喜びが満ち、」と語ります。

どんな経験も、神のご臨在を体験する喜びには匹敵しません。

イエスは、神のご臨在の中にいることがどれほど素晴らしいかご存じでした。

ルカ 10 : 38-42

10:38 さて、彼らが旅を続けているうち、イエスがある村に入られると、マルタという女が喜んで家にお迎えした。 10:39 彼女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた。 10:40 ところが、マルタは、いろいろともてなしのために気が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。妹が私だけにおもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのでしょうか。私の手伝いをするように、妹におっしやってください。」 10:41 主は答えて言われた。「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。

10:42 しかし、どうしても必要なことはわかずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」

イエスは、神に仕えること以上に神とともに過ごすことを大切になさいました。

私たちはもちろん、イエスに仕えなければなりません、祈って聖書のみことばを読んで神とともに過ごすことのほうがもっと大切なのです。

私たちが神のご臨在を感じても感じなくてもいずれにせよ、神はそこにおられます。

これは考えさせられる内容です。というのも、私たちが間違った方向に進んでいたり、神が喜ばれないことをしたりするときも、そこに神はおられるからです。

聖書は、私たちが聖霊を悲しませる可能性があると言います。

エペソ 4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

神は私たちと同じような性質もお持ちです。神は心を痛められるのです。傷つけられたり悲しんだりするのが好きな人はいません。ですから、私たちも神を悲しませないように気をつけたいものです。神はどんなときもそこにおられるのですから。

では、139 篇の 3 つめの部分に進みましょう。

今の私はこの部分を読んで心がわくわくします。今、私はお母さんのお腹の中にいる何人かの赤ちゃんのために祈っているからです。そんな祈りができるのはしばらくぶりです。

3. 神が全能であられることを知り、信じる。(神は何でもおできになる。)

神が全能であられることから連想するのは、出エジプト記で葦の海を分けられた奇跡や、エジプトでの 10 の災い、また、300 万人ものイスラエルの民に荒野で 40 年間食物を与えられたことなどでしょう。

しかし、ダビデはそういった奇跡ではなく、人体の不思議に注目します。

ダビデは、「あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。」と言います。

私たちの命が肉眼では見えないほど小さな種から始まり、今のような姿になるというのは、何より不思議な奇跡です。

皆さんもご存じのとおり、私の娘のカリスは 2 月に双子を出産予定です。私は今、このふたりの赤ちゃんのために毎日祈っています。他にも OIC 関係の方々でお腹に赤ちゃんがいる方がおられます。その人たちのエコー写真はありますが、その赤ちゃんたちのためにも祈っています。

胎児は 3 カ月ですでに内臓の形がほぼ完成しています。まだ十分に育ってはいませんが、すでに存在します。性別も決まっていますが、まだ判別できません。性別を判別できるのは、4 カ月を過ぎてからになります。

ここで胎児の成長過程をすべて見ていく時間はありませんが、神をたたえることができます。

神は、私たちがまだ母親のお腹の中にいたときから知り、私たちを導き、必要を備えてくださ

っているのです。

それ以上に素晴らしいことがあります。ダビデはこう語ります。

「あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。」(詩篇 139 : 16 口語訳)
私たちがまだ胎児としてできる前から、神は私たちの姿をご存じだったとダビデは言っているのです。

神がすべてをあらかじめ知っておられるというのは、本当に不思議なことです。

イザヤ書 46 : 9-10

46:9 遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。 46:10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。

使徒 2 : 22-23

2:22 イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議とするしを行われました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身をご承知のことです。 2:23 あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。

出エジプト 3 : 19

しかし、エジプトの王は強いられなければ、あなたがたを行かせないのを、わたしはよく知っている。

神はあらかじめ私たちのすべてをご存じです。それでもイエスのおかげで私たちは神に愛されています。この真実を知っているのは、素晴らしいことです。

この事実を踏まえるなら、私たちの罪のためにイエスが死んでくださったというメッセージは、この世でなによりも美しいメッセージとなります。

大阪インターナショナルチャーチは、神の力によって守られています。それは、この世でなによりも美しいメッセージを告げ知らせようとしているからです。

そのメッセージとは、どんな罪や過ちを犯した人も、神の前でその過ちを詫び、赦しを請えることです。これは、イエス・キリストが私たちの罪のために罰をすでに受けてくださったおかげです。

イエスがすでに罰を受けてくださったので、私たちは何をする必要もありません。

ただ、イエス・キリストをとおして神がなしてくださった御業の光のうちに生きればよいのです。

パウロはローマ 12 : 1-2 でこう語ります。

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、

むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

神が私たちのためにしてくださったことに対するふさわしい応答はただひとつ、神に人生をおささげすることです。

ダビデは 17-18 節で、神のダビデに対する御思いについて考えます。

ダビデは、それを数えようとしても無理だと語ります。

今日、私たちは OIC の創立 42 周年を祝うにあたり、この教会に対する神の愛について考えましょう。

私は、神が OIC を愛しておられると確信しています。私が大きな犠牲を払ってここに来るよう導かれたのですから。

それでも、私はここにいられることをうれしく思っています。

神の全能の力を知るダビデは、19-22 節で、自分の敵、そして神の敵に目を向けます。

ダビデには多くの敵がいました。その人々は、神に油注がれた人であるダビデに敵対していました。

ダビデは、「私は憎しみの限りを尽くして彼らを憎みます。」(22 節)と言います。

このヘブル語の単語は「完全な」という意味です。

旧約聖書にも新約聖書にも、神が私たちの敵に報復してくださると記されています。

神は、ダビデにもそうしてくださいました。そして、私たちが自分の目でそれを見ることはなくても、いつか最終的には私たちのためにも同じようにしてくださいます。

最後には神が罪を裁かれ、その裁きを免れる人はひとりもいません。

139 篇の最後は、1 節のことばに戻ります。最後にダビデは、神に心を探ってくださいと願い、神に自分の霊性を調べていただくことを望みました。

ダビデは変わらず神を心から愛しているのでしょうか。

私たちはどうでしょう。私たちは、変わらず神を心から愛しているのでしょうか。

私たちが変わらず神を心から愛しているなら、大阪インターナショナルチャーチの 43 年目はすばらしい一年となるでしょう。

神からのさらなる祝福へと導いていただきましょう。

コリント第一 15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。